

中国安全保障動向（特報：2024年4月12日）

「全人代人民解放軍・武装警察代表团全体会議からみる軍整備の方向性」

国家基本問題研究所 研究員 中川真紀

1 はじめに

2024年3月5～11日、北京で第14期全国人民代表大会第2回会議（以下、全人代）が開催され、習近平中央軍事委員会（以下、軍委）主席は7日、人民解放軍・武装警察代表团全体会議（以下、軍代会議）に出席¹した。

習近平は2013年3月に中華人民共和国軍委主席に就任（中国共産党軍委會主席には2012年11月に就任）して以来、全人代開催時に軍代会議に出席、重要講話を行っている。

本レポートでは、2015年から開始された中国の軍改革の概要を述べたのち、改革が一段落ついた2022年から本年まで3年間の会議での習軍委主席の重要講話等を比較し、各年の重視事項と軍改革との関連やその狙いを明らかにする。

2 中国の軍改革

中国は2013年11月、党第18期三中全会において軍改革を公表し、2015年以降、具体的な施策を実施している。以下は軍改革の状況と国防目標等²を筆者が纏めたものである。

習政権	1期					2期					3期				4期？				
年	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	35	49	
											建党百年		建軍百年				建国百年		
国家目標	小康社会の実現										社会主義近代化の基本的実現					社会主義近代化強国			
国防目標	機械化を基本的実現・情報化建設に重大進展										国防と軍隊の近代化を基本的実現 建軍百年奮闘目標					世界一流の軍隊			
軍改革	13.11:軍改革公表 14.3:国防・軍隊改革深化領導小組第1回會議																		
	15.11:中央軍委改革工作會議						18.11:政策制度改革工作會議						22.9:国防軍隊改革檢討會						
	15.12:創設 ・陸軍指導機構 ・ロケット軍 ・戰略支援部隊			17.4:集團軍 改編 18.1:武警改編 18.7:海警編入			18.1:訓練開始動員大會 18.1:新軍事訓練大綱 19.7:軍商業活動終了 20.6:予備役中央軍委統一指揮 20.11:聯合作戰綱要（試行） 21.2:新型軍事訓練體系構築の決定			・既改革の総括・定着 ・事後の改革計画策定 ・新任務・情勢への対応 ・戦争準備に焦点									
	機構改革			部隊改革			制度改革						運用改革						

15年からの所謂「首から上」の機構改革と17年からの「首から下」の部隊改革で組織の枠組みを整理し、18年以降の制度改革により実際に部隊が訓練できる環境を整えている。

22年9月に国防・軍隊改革検討会を開催、これまでの改革を総括し、事後の改革の方向性を検討していることから、改革に一段落をつけ、以降は改革の補備修正と並行し、訓練を積み重ねた部隊を実戦で如何に使うかという運用改革に入っている可能性がある。

習軍委主席の会議における重要講話も 13~21 年までは、軍民融合、軍改革の推進、新型コロナ対応等が主であったが、22 年以降は次の 3 で述べるように変化している。

3 人民解放軍・武装警察代表団全体会議

(1) 軍代会議の位置づけ

同会議は全人代に参加する軍・武警の代表による全体会議であり、制服組トップの軍委副主席（本年は張又俠上将）が主催する。

2022~24 年は部隊等の代表 6 名が発言した後、習近平が重要講話を行うという形式で実施されている。

(2) 2022 年軍代会議の概要³

習主席の重要講話	代表の発表テーマ	代表の所属 [*]
①法に基づいた軍事戦略の貫徹	① 軍事法制度システムの完備	① 軍事科学院
②国防及び軍隊建設の法治化レベルの向上	② 軍事闘争に関する法理整備	② 空軍
	③ 法による軍人の合法的利益保障	③ 海軍
	④ 国防科学技術刷新の加速	④ 戦略支援部隊
	⑤ 国防動員の刷新・発展	⑤ 国防科学技術大学
		⑥ 国防動員関連部署

※2022 年は所属が明記されていなかったため、人名より筆者が推定

(3) 2023 年軍代会議の概要⁴

習主席の重要講話	代表の発表テーマ	代表の所属
①思想・認識の統一、使命の自覚、実行の徹底	① 国家実験室建設	① 軍委科学技術委員会
②国家戦略システム・能力の一体化建設の新局面を開拓	② 国防科学技術工業能力建設	② 軍委装備発展部
	③ 重要インフラの総合的建設	③ 国防動員関連部署
	④ 国家備蓄制度建設	④ 聯勤保障部隊
	⑤ 陸・海上国境防衛	⑤ 陸軍
	⑥ 全国民への国防教育	⑥ 海軍

(4) 2024 年会議の概要¹

習主席の重要講話	代表の発表テーマ	代表の所属
① 使命の自覚を強化し、改革刷新を深化	① 海洋状況把握能力構築	① 海軍
② 新領域における戦略能力の向上	② ネット空間防御能力向上	② 戦略支援部隊
	③ AI の活用推進	③ 南部戦区
	④ 宇宙資源の統一計画・管理・使用の強化	④ 戦略支援部隊
	⑤ 新領域の標準汎用化の強化	⑤ 軍事科学院
	⑥ 無人作戦能力構築と運用の刷新	⑥ 陸軍

4 重視事項の変遷とその狙い

(1) 重視事項の変遷

重要講話・発表テーマ等から、使命の自覚や科学技術等共通の項目を除いた重視事項は以下の通り。

2022年：軍関連法制度の完備

2023年：国家戦略システム・能力の一体化構築

2024年：新領域への対応

(2) 重視次項の軍改革における位置づけとその狙い

2022年は3月の会議時点では、18年頃から開始された制度改革の最終段階であり、制度改革で整備した法規・大綱等を部隊末端までに徹底させるため、法制度の完備が重視された可能性がある。同年9月の国防・軍隊改革検討会での改革総括に繋げる狙いも考えられる。

2023年は2022年2月から始まったロシアによるウクライナ侵攻の教訓を反映し、国家戦略システム・能力の一体化構築を掲げて、継戦能力構築に必要な国家備蓄や国防教育・動員関連を重視した可能性がある。

2024年は「新領域」（中国語では「新興領域」、解放軍報の論説等では、「海洋、宇宙、サイバースペース、生物、新エネルギー、AI等の領域」と解説）が特に強調された。我が国、防衛省でも宇宙・サイバー・電磁波領域を「新たな領域」としているが、中国軍もサイバー、AI、宇宙、無人兵器等を会議での発表テーマとして取り上げている。

また、代表の筆頭として、海軍及び海洋状況把握能力が取り上げられて、新領域の中でも「海洋」を重視している旨を示唆した。我が国においても2023年12月に「我が国の海洋状況把握（MDA）構想」が策定されているが、中国もこの能力構築を特に重視する姿勢を明示した可能性がある。

5 まとめ

本年3月の軍代会議で習軍委主席は、15年から開始した軍改革を22年9月で一段落つけ、22年以降は軍改革での諸施策の徹底を図り、23年以降は露によるウクライナ侵略の教訓を取り入れ、24年以降は新領域での能力構築への取り組みを開始するという軍整備の方向性を示した可能性がある。

今後の中国人民解放軍は、改革により機械化・情報化され、十分に訓練ができる環境が与えられた部隊をもって、海洋・宇宙・サイバー・AI・無人機等新たな領域での能力強化に邁進していく可能性が大きいと見られる。

参考文献

¹ 「解放軍報」 20240308

http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-03-08&paperNumber=01&articleid=926623&tsryetnbweq

² 「強軍十年大事記」 中國人民解放軍軍事科學院 20221010

http://www.81.cn/jfjbmap/content/2022-10/10/content_325442.htm?&tsrfdryyqjb

等から筆者が作成

³ 「解放軍報」 20220308

http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2022-03-08&paperNumber=01&articleid=827273

⁴ 「解放軍報」 20240309

http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2023-03-09&paperNumber=01&articleid=900025